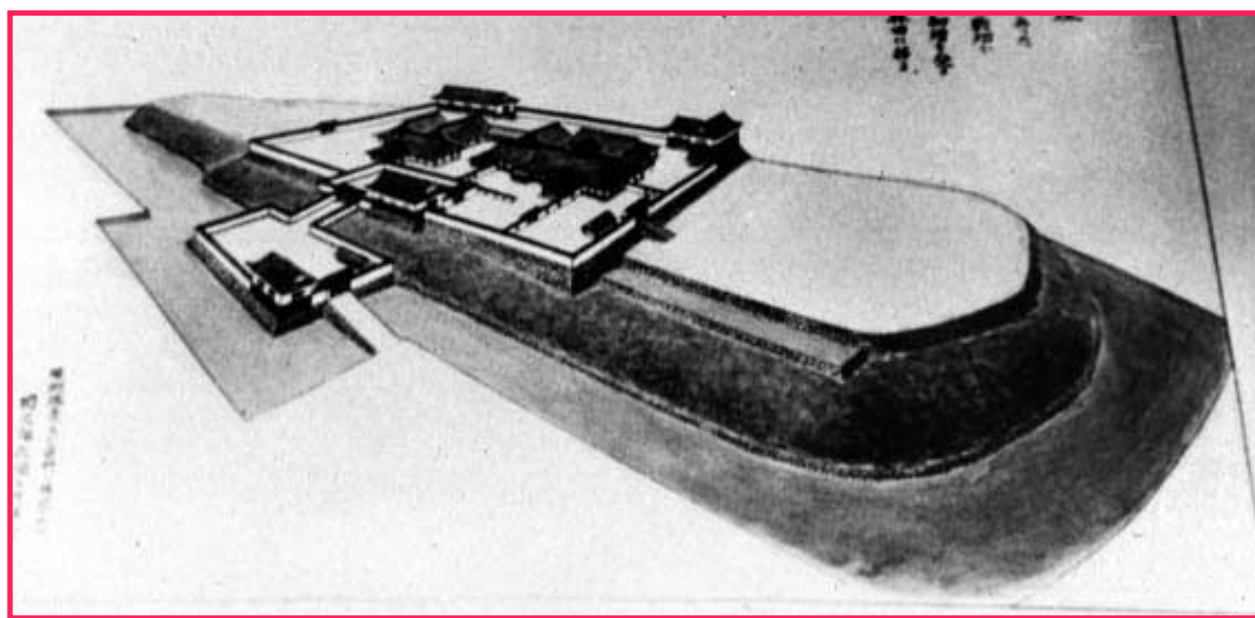


姫路に残るもうひとつの城下町

建部氏 1 万石の陣屋町・林田



姫路市内に、姫路以外の「城下町」があったことを知らない人は少なくないだろう。市の北西部に位置する林田には、かつて建部氏 1 万石の城下町があった。建部氏は大名ではあるが、陣屋格であったから正確には陣屋町となる。大小の差こそあるものの、陣屋を中心に武家屋敷と町人地が林田町を形成していたことに違いはなく、建部領 1 万石の政経の中核であったのだ。

姫路城のように、林田では陣屋の建物は残っていないが、居館のあった場所にははっきりとわかる。現在は聖丘（ひじりおか）とよばれる小高い丘がその場所で、『播磨国風土記』には「塩阜（しおおか）」として登場する。中世には窪山城があった独立丘である。そして、近世には上図のように頂部を削平して居館の曲輪が造成され、その東西に別の曲輪があった。現在東の曲輪に建部神社があり、かつて建部家文書が収蔵されていたが火災で焼失したという。

陣屋に関する建築物などは残っていないが、因幡街道に沿った旧町の佇まいは落ち着いていて、「昔もこんなのかなあ」と思わせる。姫路旧城下が風情を喪失し、どこにでもあるような地方の市街地になってしまったのとは対照的な姿を見せてくれている。

< 参考；林田郷土史編集委員会編『林田郷土史』林田村教育委員会、1950 >



林田藩 藩校「敬業館」

藩政時代のもので唯一残るのが、藩校・敬業館の建物である。藩校旧蔵書は林田村役場（林田町は昭和42年、姫路市に合併）などで図書として回し読みされていたようだ。

数年前に調査に行った際、敬業館は児童文庫として、地元父母のボランティアによって活用されていた。藩校の伝統が今に生きているようで、うれしかったのを覚えている。

こうすることが地域の文化を下支えするのだろう。

なお、建物は原位置ではない。



陣屋の濠跡

写真右手の水路が濠の名残。コンクリートと植栽は、濠を埋め立てて造成された。濠の水が滞留し、悪臭や蚊が発生したための改修であった。少しもったいない気もするが、生活者の立場からすれば当然なのかもしれない。難しい問題ではある。

写真左手は畑となっているが（ここでは写っていない）、もと武家屋敷のあったエリアで、屋敷割りが畑の畝となってよく残っている。井戸跡や屋敷神の祠跡も見られる。

< 上記については調査時に瀬良賢一氏より御教示を得た >

林田には大庄屋三木家住宅があり江戸前期の建物が残っています。現在は姫路市教育委員会文化課の管理する歴史的建造物となっています。この三木家はもともと聖岡にあったとされており、建部氏の入封に際し当地での陣屋建設にあたり、町の南に移転したと言われています。おそらく、居館が完成するまでの間、三木氏の屋敷が陣屋となっていたのでしょう。

また三木家住宅は、陣屋町と構村との境界にあります。その上、姫路方面から因幡街道を進んでくると、陣屋町の大手口にあたる位置でもあります。そしてその敷地は陣屋町に食い込む形で展開しています。

三木家は俗に「一万石の大庄屋」と呼ばれ、まるで領主と肩を並べるほどの力があつたように語られています。真偽のほどはわかりませんが、藩政において三木家の存在感がいかに大きかったかが容易に窺われます。



"Shiro Fumi" No.23 The News of Himeji Center for Research into Castles and Fortifications.